

【未来へつなげる橋りょう長寿命化の推進（防災・安全）】評価の内容にかかる審議結果

1 成果指標の妥当性などについて

(1) 質疑

Q1 指標全体について

社会資本総合整備計画の指標等は、委員会等の第三者から審議をしたうえで作成していますか。計画の指標が有効かどうか事前に議論できれば評価もし易くなるのではないかと。

A1 国や県、関係部署の意見を反映し作成しており、第三者からの事前審議は行っておりません。今後はあらかじめご意見をいただく機会を設けて次期計画を作成していくよう、検討したい。

Q2 指標全体について

事業実施箇所と評価対象箇所が一致していない理由はなにか。

A2 評価対象は工事完了箇所だけになります。完了していないものについては、次期計画で継続して実施し評価します。

(2) 審議の内容

ア 指標1（長寿命化対策実施率【橋りょう】）の達成度「○」について・・・「○」で合意

a) 1橋多く実施できたことについて、いろいろな背景があるかと思うが、うまく進捗させることができたプロセスを次に引き継いで目標達成に繋げてほしいし、1橋増えたことはきちんと評価できる。

イ 指標2（補修対策実施率【トンネル】）の達成度「○」について・・・「○」で合意

ウ その他指標1（対策実施率 面積ベース【橋りょう】）の達成度「○」について・・・「○」で合意

a) その他指標1について、点検の判定区分や道路の重要度で修繕対象を選定しているのだから、平準化した面積ベースを指標として使用するのはいかなる意味がないのではないかと意見があり、今後の課題として整理する。

2 今後の社会資本整備について

(1) 質疑

Q1 災害時の緊急輸送道路等に架かる橋は耐震性も重要だと思うが、この補修工事で耐震性が上がる可能性があるのか。

A1 技術進歩により耐震化に匹敵する修繕方法がありますので、直す部分によってその方法を取り入れています。

Q2 課題となっている「技術者の不足」について、それを確保する具体的なプランはあるか。

A2 長岡市では、メンテナンスエキスパートの取得に取り組んでいて、橋梁の技術向上で現在3人取得している。橋の数が多く人数はまだ足りないが、若手職員を中心に増やしていきたいと考えています。

(2) 意見

ア 全橋の点検をして橋りょうの位置・構造等のデータを一元化できたことで、それらの情報を的確に使用し、修繕の優先度や管理水準など、橋りょう適正管理のためのロードマップが描けるようになり、民間と一緒に頑張っていくことで、工事結果のフィードバックなどで管理水準を底上げし、また、安い価格で維持管理ができる技術の実現が期待できる。そういったことから、全橋調査を行ったことは市や市民にとって大変良かったことだと思う。